

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

デイリー・ジーザス・ニュース #115

8. イエスは「永遠の命を与えるパン」です

ヨハネ6:30-40

30 そこで彼らはイエスに尋ねた。「では、私たちが見てあなたを信じることができるようなしるしを何として下さるのですか。あなたは何をなさるのですか。31 私たちの祖先は荒野でマナを食べました。聖書にこう記されています。「神は彼らに天からのパンを与えて食べさせた。」(出エジプト記16章4節、ネヘミヤ記9章15節、詩篇78章24～25節)

32 イエスは彼らに言われた。「よくよくあなたたちに言います。天からの永遠のパンを与えたのはモーセではなく、天からの真のパンを与えるのは私の父です。33 神のパンとは、天から降って来て世に永遠の命を与えるパンなのです。」

34 「お願いします、先生」と彼らは言いました、「いつもこのパンをください」。

35 するとイエスは宣言した。「わたしは永遠の命を与えるパンです。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことはありません。36 しかし、わたしがあなた方に言ったように、あなた方はわたしを実際に見たのに、それでも信じないのです。

37 」父がわたしに与えて下さる者は皆わたしのもとに来る。わたしのもとに来る者をわたしは決して追ひ払わない。」

38 」わたしが天から下って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしを遣わした方のご意志を行うためです。39 わたしを遣わした方の意志は、わたしに与えてくださった人々をひとりも失うことなく、終りの日に復活させることである。40 わたしの父の御心は、子を見て信じる人が皆永遠の命を得ることであり、わたし自身が終りの日に彼らをよみがえらせることです。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マルク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています**。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	カペナウムのシナゴーク
タイムライン	4月上旬 (26ヶ月目)
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

	I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波
タイトル	8. イエスは「永遠の命を与えるパン」です

コメント：

の宣教における最も心強い約束が二つ含まれています。今日はこれらを簡単に見ていきます。しかしまず、ヨハネによる福音書に記されているイエスの言葉を概観する必要があります。

イエスが「わたしは永遠の命を与えるパンである」と宣言されたとき、彼は聴衆に前日に5000人の人々に食事を与えた様子を思い起こさせながら、自らの言葉の二つの素晴らしい連鎖を結びつけていたのです。最初の連鎖は、私たちが生命を維持するために最も基本的な欲求である、呼吸、水、そして食物を結びつけました。ヨハネによる福音書に登場するイエスの七つの「わたしはある」という言葉は、二つ目の連鎖を構成しています。

イエスは、私たちがイエスを信じるなら、イエスが「永遠の命を吹き込む」という「天からの第二の誕生」から始まる霊的な命について語られました（3.3-8）。呼吸は、私たちの生命を維持するために最も基本的な身体機能です。

水は私たちにとって二番目に重要な物質的欲求です。イエスは「生ける水」、すなわち「永遠の命を与える水」を井戸端の女に与え、それからシカルの町全体に与えたと語られました（4章7-15節）。呼吸と水に次いで、食物は私たちにとって三番目に不可欠な欲求です。ですから、この説教の中でイエスは「パン」、すなわち「永遠の命を与える食物」であると言われました。

これらのイメージを通して、イエスは、私たちの体にとっての呼吸、水、食物が、霊的な意味でのイエス自身であるということを語っておられました。言い換えれば、私たちはイエスを本当に必要としているのです。私たちの創造主であり救い主であるイエスなしには、肉体的にも霊的にも、人生のあらゆる側面は成り立ちません。イエスは、私たちの肉体的、霊的な生活のあらゆる側面を支えてくださるお方です。

イエスの七つの「わたしはある」という表現は、第二の一連の言葉です。イエスは既にシカル（ヨハネ4:26）において、そして前夜嵐の中水の上を歩いた時（マタイ14:27）にも、自らを「わたしはある」と呼んでいました。イエスが「わたしは永遠の命を与えるパンである」と言った時、ヨハネ福音書の中で「わたしはある」で始まる七つの複合称号の連続が始まりました。これらは、「わたしは命のパンである」（6:35）、世の光（8:14）、門（10:7）、良い羊飼（10:11）、復活と命（11:25）、道、真理、命（14:6）、そして「まことのぶどうの木」（15:1）です。

旧約聖書には、神をヤハウェを用いて「我は在り」という複合称号で呼ぶことが7回あるため、ヨハネがイエスを「我は在り」という複合称号で呼ぶことを7回記録していることは、イエスの神性を強く主張するものです。今日の朗読では、イエスの最初の「我は在り」という複合称号を紹介し、それらを、私たちの肉体

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

Ⅰ. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

的・精神的な生活においていかにイエスに依存しているかを示すイメージと結びつけています。この二つの連鎖は、イエスの神性を理解する上で極めて重要かつ強力な概念です。

さて、今日の朗読では、イエスが私たちに永遠の命を揺るぎない確信を与えるために与えられた二つの約束について見ていきます。一つ目は、私たちが信仰によってイエスのもとに来るとき、イエスが受け入れ、私たちが満足するという約束です。これはヨハネ6章35節と37節に記されています。これらの約束はどちらも「強調否定」と呼ばれるギリシャ語の文法構造を用いており、イエスはこれを用いて、私たちがイエスを信じるときに二つのことが起こり得ないという絶対的な確信を強調しました。

6章35節の最初の約束は、私たちがイエスを信じるなら、永遠の命を所有するという満足感が得られることを保証しています。私たちは永遠の命を持っていることを知っているからこそ、もはや永遠の命に「**飢えることも渴くこともない**」のです。イエスは、私たちが永遠の命を持っているという永続的な満足感を約束し、肯定的に述べています。クリスチャンには、聖書の証、心に宿る聖霊の証、他のクリスチャンの証、そしてイエスの死、復活、昇天の現実があり、それによって永遠の命の確信を強めてくれます。

この人生には知らないことがたくさんあり、弱く、無力な部分もたくさんあります。しかし、一つだけ確かなこと（そして、本当に確信しています！）は、神がイエスにおいて私の罪をすべて赦してくださったということです。ですから、私が肉体的に死ぬとき、私の霊は直接イエスのもとに行き、イエスと共に永遠を過ごすのです。これが永遠の命の保証です。この箇所では、イエスはさらにこのことを繰り返し強調しています。6.33と6.38-40をご覧ください。

イエスは6章37節で二度目に強調否定を用いています。これは、私たちが信仰によってイエスのもとに来るなら、イエスは「**決して私たちを追い払うことはない**」という、**イエスからのもう一つの絶対的な約束です**。

イエスの宣教において驚くべき事実は、誰でもイエスのもとに来ることを歓迎されたということです。イエスを憎んでいたとしても、社会的に追放されていたとしても、律法によって近寄らないように命じられていたとしても（特定の皮膚病を患っていた人々など）、あるいはイエスの宿敵であっても、関係ありませんでした。イエスは近づく者すべてを受け入れました。イエスは、たとえそれが自身の文化においては過激で扇動的であったとしても、日々、その心の広さを示しました。6章37節でイエスは、信仰によってイエスのもとに来る者をイエスは受け入れ、いかなる状況においても決して見捨てたり、見捨てたりしない、という確かな約束を述べています。

これは永遠の命の第二の保証です。もしイエスが私たちから離れないのであれば、私たちはイエスの存在を体験するために、イエスと共に生きなければならないからです。イエスとのこの交わりはこの地上で始まり、永遠の未来にまで続きます。

応用：

イエスが力強く否定するこの二つの約束は、イエスを信じるすべての人に、イエスがインマヌエルであり、「神は我らと共におられる」という揺るぎない確信を与えることを意図していました。それゆえ、私たちは

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

この世においても、そして来るべきすべての時代においても、イエスが我らと共におられるのです。イエスが永遠に我らと共におられるという確信は、イエスと共に永遠の命を得るという確信です。イエスを主であり神であると信じるすべての人にとって、それは確かな約束なのです。

イエスからのこの栄光ある二重の約束に対する唯一の適切な応答は、イエスの御前にいるのにふさわしい絶え間ない愛、感謝、賛美、そして礼拝です。

あなたはどうですか？約束された主の御前にもっと深く入り、従うために、何を変える必要がありますか？